

新書

●橋本淳司著『日本の地下水が危ない』
グローバル化のなか、環境や食料と密接な関係にある水資源は安全保障ともかかわり、「外国資本による水源地買収」は日本各地で話題になっている。地下水を管理する法律がない現状での、国や自治体レベルの法整備や地域の水源涵養（かんよう）の取り組みを紹介。生態系を基盤にした新しい水管理思想への変換を勧める。

（幻冬舎新書・819円）